

## 接尾辞「-性」「-化」「-的」について —前接する語基の特徴をめぐって—

李夢迪

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

li.mengdi@j.mbox.nagoya-u.ac.jp

### 1. はじめに

本研究で本研究では日本語の接尾辞「-性」、「-化」、「-的」の前に来る語基の語種、品詞性及び意味上の使用傾向、三つの接尾辞の使われ方及び接尾辞の間の関係について、日中対照を行いながら考察する。

これらの接尾辞は、例1のように同一の語基に3つとも付く場合もあれば、例2のように2つしか付かない場合もあれば、例3のように1つしか付かない場合もある。

例1：①効率性、効率化、効率的 ②安定性、安定化、安定的 ③国際性、国際化、国際的

例2：①\*映画性、映画化、映画的 ②必要性、\*必要化、必要的 ③自由性、自由化、\*自由的

例3：①感受性、\*感受化、\*感受的 ②\*少子性、少子化、\*少子的 ③\*印象性、\*印象化、印象的

これらの現象を見ることにより、語基を体言化する「N化機能」、語基を用言化する「VN化機能」及び語基を相言化する「AJN化機能」と各接尾辞の前接する語基の特徴を分析する。

### 2. 先行研究とその問題点

➤ 荒川(1986)は、「-性」の前にくる語基について、用言系が一番多く、相言系は二位で、体言系が一番少ないと指摘している。また、田窪(1986)は、接尾辞「-化」について、体言系と相言系より用言系の語基に付きにくいと指摘している。水野(1987)は「-的」が相言類の語基と結合することはあまり多くないことを指摘し、原(1986)も形容動詞であるものは原則として「-的」とならないことを指摘している。

しかし、これら三つの接尾辞が現在も同じ傾向を示しているのか調べる必要がある。また、先行研究における語基の分類は用言系、体言系、相言系に限られていて、副言系及び「合理」「積極」など、非自立語の場合については言及されていない。

➤ 水野(1985)では、「-性」と「-化」の前に来る語基の品詞性を比較し、「-性」は体言系・相言系・用言系・非自立語である結合形態の間に大きな偏りが見られないと指摘している。それに対して、「-化」は、体言系・相言系が多く、結合形態がそれに次ぎ、用言系が少なく、副言系に付く例がないとされている。

しかし、水野(1985)の検索対象は新聞に限っていて、かつ「日常化」「絶対化」など、「副言+化」の例が使用されているため、大規模の資料を使用し、今の使用傾向を調べる必要があると

考えている。

➤ 王 (2002) は、修飾機能を持つ (例:「動物性 (たんぱく質)」「-性」の語基と修飾機能を持たない (例: \*「芸術性 (作品)」「-性」の語基を比較し、修飾機能を持つ「-性」の語基は「対照性」(例:「可燃性」と「不燃性」)と「属性抽出」(例:「耐熱性」、「遮光性」)という二つの制約を満たさなければならないと指摘されている。

しかし、修飾機能を持たない「-性」についての考察はあまりされていない。かつ修飾機能を持つ語の定義、「助詞「の」を介し或いは介さずにある語の性質を限定する機能を持ち、その語との関係を「主語—述語」に変換できるもの」(例:「動物性/動物性の (たんぱく質)」→「(この)たんぱく質は動物性だ」)というのは必ずしも正しくない。

例えば、「同一性 (基準) / 同一性の (基準)」は、「\* (この) 基準は同一性だ」ではなく、「(この) 基準は同一だ」或いは「(この) 基準は同一性がある」と言わなければならない。つまり、修飾機能を持つ語(「同一性」)も「主語—述語」に変換できないものもある。そのため、修飾される語の性質を表しているのか(「同一性(基準)」)、その語の下位分類を表しているか(「動物性 (たんぱく質)」)などによって、修飾機能を持つ語をさらに分類する必要があると思う。

➤ 池上 (2000) は理科系の学会抄録コーパスに基づき、「-化」の用法の分析を行い、「基本的に名詞語基では典型を持つ語が、ナ形容詞語基では品質形容詞かつ性状規定を表す語が、動詞語基では状態変化動詞でかつ結果状態の持続を表す語が語基になる」と指摘している。

しかし、名詞語基に「典型を持たない語が語基にならない」とされ、さらに、典型とは「与えられた語が表わす事象が典型的に、普通に持つ特徴」としか解釈されていないため、説明があいまいだと考えられる。

また、池上 (2000) では、語基にくる語や共起表現が分野によってかなり異なると指摘されている。そのため、理科系以外についても、考察を行いたいと思う。

### 3. 研究方法及び結果の分析

#### 3.1 研究方法

国語国立研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の中納言を使用し、2000-2008年の全てのデータ計7300万語を検索対象とした。そして、接尾辞ではない例を削除し(例:「ある的を射る」、「学生の性教育」など)、字形が違う語彙を統一し(例:「マンガ」と「漫画」など)、漢語、和語、外来語の別に語基を分類した。

さらに、語基の語種ごとに延べ語数と異なり語数をまとめた。

#### 3.2 研究結果

語基の語種ごとに延べ語数と異なり語数をまとめたものを表1に示す。

表1 接尾辞「-性」「-化」「-的」の語種ごとのヒット数（カッコ内は各接尾辞ごとの出現率 %）

	「-性」		「-化」		「-的」	
	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数
漢語	52,194(97.0)	2,343(88.7)	37,076(90.3)	1,872(74.5)	172,592(98.1)	3,614(74.4)
和語	345 (0.6)	109 (4.1)	496 (1.2)	124 (4.9)	1,291 (0.7)	463 (9.5)
外来語	1,251 (2.3)	18 (7.2)	3,507 (8.5)	517(20.6)	2,244 (1.3)	779(16.1)
合計	53,790 (100)	2,641 (100)	41,079 (100)	2,513(100)	176,127(100)	4,856 (100)

表1を見ると、「-的」は外来語に付く延べ語数を除いて、語種ごとの延べ語数と異なり語数が一番多いことが分かった。

また、水野(1985)は、「-化」が「-性」より造語の強い傾向があると指摘しているが、今度の調査においては、延べ語数も異なり語数も「-性」より「-化」の方が少ないことが分かった。

語種については、三つの接尾辞とも漢語につく傾向が強い。和語と外来語にも付けるが、和語に一番付きにくいのである。また、「外来語+化」の使用が「-性」と「-的」より多いことが分かった。

### 3.3 品詞性

次に、語基の品詞性を考察するため、加納(1989)の品詞分類の基準にしたがって、出現回数が二回以上の語基に品詞判断をした結果をまとめたものを表2に示す。

表2 二回以上出現した語基の語数（カッコ内は品詞ごとの出現率 %）

	「-性」 ≥2回	「-化」 ≥2回	「-的」 ≥2回
N (体言系)	687(40.6)	940(64.4)	1,614(58.7)
N* (非自立語)	197(11.6)	57 (3.9)	208 (7.6)
VN (用言系)	581(34.3)	246(16.9)	801(29.1)
AJN (相言系)	208(12.3)	210(14.4)	101 (3.7)
AND (副言系)	21 (1.2)	6 (0.4)	26 (0.9)
合計:	1,694 (100)	1,459 (100)	2,750 (100)

表2から分かるように、三つの接尾辞とも体言系に付く例が一番多く、副言系に付く例が一番少ないことが分かった。

「-性」の前に体言、「-化」の前に用言、「-的」の前に相言が来る場合、いわゆる、品詞転換機能を持っていない場合を注目すると、色の濃い部分になる。横で比べると、品詞転換機能を持っていない例は、同じ行で語数と出現率が一番少ないことが分かった。このことから、三つの接尾辞は品詞転換機能を持っていない例がより少ないと考えられている。

これは、先行研究に水野(1985)の、「-性」は体言系・相言系・用言系・非自立語である結合形態の間に大きな偏りが見られないという指摘と異なっていると考えられる。

### 3.4 三つの接尾辞の前接する語基

次に、接尾辞「-性」「-化」「-的」のそれぞれに前接する語基の上位 25 語を取り上げ、コーパスに基づいたダイス係数を計算し、補正したダイス係数を他の二つの接尾辞と比較したものを表 3、表 4、表 5 に示す。

表3、表4、表5 「-性」、「-化」、「-的」の上位 25 語及び補正したダイス係数(括弧内は語数)

性				化				的			
上位 25 語	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)	上位 25 語	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)	上位 25 語	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)	ダイス係数 (語数)
1 可能	3,475.39(11421)	7.55(20)	1.38(13)	1 活性	861.45(1874)		0	1 基本	708.76(6666)	0.30(1)	0
2 必要	559.43(1623)	0	3.77(34)	2 民营	665.30(1416)		0	2 具体	<b>719.84(6606)</b>	20.26(62)	148.48(360)
3 重要	419.50(1186)	0.46(1)	0	3 温暖	535.96(1132)		0	3 一般	511.17(4784)	7.40(24)	112.03(292)
4 危険	364.44(1018)	0	0	4 高齢	407.99(985)		0	4 積極	471.48(4259)	30.17(88)	5.70(13)
5 安全	340.99(998)	2.62(6)	0	5 多様	315.36(668)	218.61(602)	0.23(2)	5 社会	388.96(3782)	80.69(291)	56.55(168)
6 方向	261.53(720)	0.47(1)	4.96(44)	6 近代	257.14(562)	10.99(31)	56.84(508)	6 比較	295.27(2650)	0.35(1)	0
7 生産	212.64(632)	2.57(6)	11.66(106)	7 合理	241.52(520)	91.80(256)	121.50(1082)	7 個人	288.12(2643)	1.64(5)	1.24(3)
8 多様	218.61(602)	315.36(668)	0.23(2)	8 少子	217.03(453)		0	8 経済	277.56(2620)	51.47(171)	24.19(65)
9 人間	186.26(546)	8.71(20)	58.69(531)	9 正当	210.29(441)	85.63(234)	0.11(1)	9 効果	269.14(2410)	2.11(6)	0
10 信頼	180.86(499)	0.47(1)	0	10 一体	197.03(415)	31.00(85)	19.87(176)	10 精神	256.54(2353)	36.99(113)	2.07(5)
11 安定	152.98(429)	142.01(308)	33.85(302)	11 情報	<b>169.44(415)</b>	0.97(3)	0.98(9)	11 最終	228.18(2065)	0	0
12 有効	137.69(382)	2.81(6)	2.70(24)	12 グローバル	194.76(406)	1.47(4)	0.11(1)	12 政治	218.71(2004)	10.18(31)	6.22(15)
13 感受	135.84(368)	0	0	13 効率	187.89(404)	93.69(261)	129.63(1154)	13 本格	207.65(1853)	0	107.76(234)
14 利便	135.50(367)	0	0.23(2)	14 自由	<b>175.90(395)</b>	4.17(12)	0	14 歴史	186.51(1682)	13.10(38)	0.88(2)
15 柔軟	111.40(302)	7.71(16)	0.11(1)	15 高度	185.01(394)	0.36(1)	0	15 ~学	186.82(1673)	5.99(17)	6.36(14)
16 同一	108.15(298)	36.32(77)	1.01(9)	16 実用	177.52(375)	41.49(114)	30.01(266)	16 総合	<b>170.54(1553)</b>	7.02(21)	10.62(25)
17 社会	<b>80.69(291)</b>	56.55(168)	388.96(3782)	17 具体	148.48(360)	20.26(62)	719.84(6606)	17 伝統	<b>171.00(1526)</b>	2.49(7)	0.46(1)
18 耐久	107.39(291)	0	0	18 国際	<b>140.17(353)</b>	10.46(33)	144.54(1340)	18 自動	154.02(1432)	0	60.90(155)
19 機能	96.37(272)	17.83(39)	46.31(414)	19 工業	<b>160.14(347)</b>	1.43(4)	6.17(55)	19 圧倒	155.71(1382)	0	0
20 流動	<b>98.58(269)</b>	67.36(141)	9.38(83)	20 民主	144.01(324)	0	31.77(286)	20 国際	<b>144.54(1340)</b>	10.46(33)	<b>140.17(353)</b>
21 効率	93.69(261)	187.89(404)	129.63(1154)	21 標準	147.38(320)	0.36(1)	36.42(325)	21 代表	145.16(1307)	9.01(26)	0
22 創造	<b>94.27(258)</b>	0	29.03(257)	22 組織	144.16(316)	3.89(11)	41.26(369)	22 客観	145.23(1290)	49.54(137)	11.74(25)
23 関連	91.27(257)	0	0.45(4)	23 安定	142.01(308)	152.98(429)	33.85(302)	23 一時	141.17(1260)	1.07(3)	0
24 合理	91.80(256)	241.52(520)	121.50(1082)	24 明確	147.82(306)	4.80(13)	0	24 世界	128.99(1206)	2.17(7)	13.86(36)
25 放射	90.55(251)	2.34(5)	0	25 商品	137.29(302)	9.52(27)	1.34(12)	25 科学	128.70(1164)	10.93(32)	3.49(8)

### 参考文献

- 荒川清秀(1986)「-性-式-風」『日本語学』VOL.5, 3月号, 明治書院, pp.85-91、池上素子(2000)「「~化」について—学会抄録コーパスの分析から—」『日本語教育』106号, 日本語教育学会, pp.27-35、王淑琴(2002)「修飾機能を持つ「-性」の語基の制約について—修飾機能を持たない「-性」の語基との比較から—」『日本語教育』114号, 日本語教育学会, pp.80-89、加納千恵子(1990-1991)「漢字の接尾辞的用法に関する考察(2)-(4)」『文藝言語研究 言語編』第18、19、20巻, 筑波大学文芸・言語学系、田窪行則(1986)「-化」『日本語学』VOL.5, 3月号, 明治書院, pp.81-84、原由起子(1986)「-的—中国語との比較から」『日本語学』VOL.5, 3月号, 明治書院, pp.73-80、水野義道(1987)「漢語接尾辞の機能」『日本語学』VOL.6, 2月号, 明治書院, pp.60-69、水野義道(1985)「接尾的要素「-性」「-化」の日中対照研究」『待兼山論叢 日本学編』第19号, 大阪大学文学部, pp.3-19